

美肌をつくるサイエンス

Bella Pelle ベラペレ

2020 May

Vol.5 No.2

特集

男性美容

Round Table Discussion

「人生100年時代」を見据えた男性美容の幕開け

Feature Articles

- 1 シミと疣贅と皮膚癌との鑑別
- 2 多汗症の臨床
- 3 体毛の脱毛
- 4 香りとニオイ

Tell me, maestro

テストステロン補充療法

特集 男性美容

「人生 100 年時代」を見据えた 男性美容の幕開け

男性の美容意識の変化や医療技術の進歩を背景に、男性美容の領域が活性化しつつある。かつては、その目的は薄毛や腋臭などのコンプレックスを解消するためのものであった。しかし最近では、年齢を重ねても若々しく積極的に人生を謳歌するためのアンチエイジング医療へと変化している。今回は男性の美容医療に携わる医師および男性化粧品に詳しい化粧品業界の研究者に、男性美容の現状と今後の傾向についてディスカッションしていただいた。



司会

山下理絵
湘南藤沢形成外科クリニック R 総院長



小林一広
Dクリニック東京院長



池田欣生
東京皮膚科・形成外科総院長



志水弘典
株式会社マンダム
スキンサイエンス開発研究所
フロンティア開発研究室室長

男性の美容意識の変化

山下 美容医療というと、一般的にはおもな治療対象は女性で、「シミやシワのない美肌になりたい」、「小顔になりたい」、「パッチリとした二重になりたい」というのが主要なニーズだと思います。一方、男性はどのような美容医療を求めてクリニックを受診するのでしょうか。男性の美容の悩みも多種多様だと思いますが、

先生方のクリニックでは実際にどのような施術を希望される方が多いですか。

池田 昔から、顔や体のコンプレックスを解消するために、侵襲性の高い美容医療の手術を受ける患者さんは一定数いらっしゃいます。男性は美容医療の施術を受けることで仕事や学校を休むことに抵抗を感じるため、この層の患者さんの割合は、現在でも男性患者の約10%にとどまります。しかし、ここ4~5年で低侵襲の治療が増えるなど、医療の技

術が飛躍的に進歩したことを背景に、新たな患者層が受診するようになりました。具体的には、幹細胞点滴療法による若返り、筋力増強のための磁気刺激、脂肪細胞をターゲットにした超音波療法などの施術を受ける患者さんです。つまり、今まで仕事を休んでまで施術を受けることに躊躇していた方が、積極的に美容医療を受ける状況が生まれています。

山下 女性の場合も美容医療の低侵襲化から、一般の皮膚科や形成外科を受診するような感覚で美容医療を

受ける患者さんが増えています。同じ流れが男性でもみられるということですね。

池田 今のところは男性では経営者や著名人など、一定の社会的階層のあいだで浸透している状況ですが、施術の効果や評価が口コミで伝わっていくと、今後男性美容の受診はより一層広がるだろうと予想しています。

山下 小林先生は長年精神科医として男性型脱毛症(androgenetic alopecia; AGA)の診療に携わられていますが、患者さんの傾向に変化は

ありますか。
小林 開業して21年目になりますが、開業当初は20歳代後半~30歳代の頭髪で悩んでいる患者さんが圧倒的に多くいらっしゃいました。今もそうした若い患者さんはいらっしゃいますが、最近では、50~70歳代の、会社のトップ、現役の経営陣の方の受診が増えています。薄毛を半ばあきらめていたところに、最新治療で頭髪が増えた噂を聞きつけて来られるのです。こうした方々は、治療効果を実感すると、気持ちがどんどん

前向きになって、「シミも取りたい」、「シワも何とかできるの?」、「このメタボのお腹を引き締めたい」と、次々に新たなニーズが出てきます。頭髪をきっかけに全身が変わっていくようです。全身の変化に至るまでにはある程度の時間と金銭的な余裕がないと難しいですが、高齢の男性患者さんが増えていることは事実です。

山下 頭髪の悩みは高齢化しているのですね。志水さんは男性化粧品のメーカーで仕事をされていますが、最近の男性美容に対して、どの



小林一広
KOBAYASHI Kazuhiro

1991年北里大学医学部卒業。同年北里大学病院精神神経科入局。1993年埼玉県立精神保健総合センター医員。1995年から北里大学東病院精神神経科で病棟医。研究員を経て、1999年城西クリニック院長。2014年より現職。精神保健指定医。

は年々高くなっています。60歳代以降に関しては、もともとは老化に対するアンチエイジング的なケアが必要と考えていましたが、実際の60歳代はわれわれが想像する以上に元気で、人生を謳歌するために楽しいことはなんでもやる、というニーズに応えられるような商品が必要なのではないかと思っています。

超高齢社会と美容医療

山下 企業では超高齢社会の美容関

頭髪の分野の難しさは、薄毛の医学的な基準がないことです。自分で髪の毛が薄いと思っただけでは薄毛になるのです。

連の製品についてどのように捉えていますか。

志水 以前は60歳代以上を対象とする製品は老化、アンチエイジングへのケアという考えでした。しかし、最近の高齢者はみなさん元気なので、外に出てコミュニケーションをとるために外見や体臭をポジティブにケアする時代だと感じます。より前向きに人生を謳歌することを大切にされているようです。

山下 今の高齢者は本当に元気ですよ。小林先生は精神科医として、男性も女性と同じように美容医療に関心をもちつつある背景についてどのように分析されますか。

小林 美容医療を精神科医の立場で分析すると、突き詰めれば、身体醜形障害の潜在化ということになるのですが、男性を含めた最近の美容医療の盛り上がりはそれだけではなく、「人生100年時代」といわれるようになったことと関係があるように感じます。つまり、老後の人生が長期化したことで、残りの人生をより元気に、澁刺と生きたい、という素直な気持ちからではないでしょうか。

池田 本当にそう思います。付け加えると、人生100年時代と言われているのですが、世の中の仕組みがまだそこまで追いついていないのが現状だと感じます。小林先生のおっしゃったように、50～70歳代で毛髪の量を気にしてこれから精力的に生きたいと思っている方が増えているのに、労働・教育環境はまだまだ50歳以降には閉鎖的で、情報から閉ざされています。たとえば、60～70歳で手が動かなくなったときに、どこに相談すればいいのかかわからず、趣味をあきらめなくてはならないケースも起こるでしょう。年齢を重ねても健康でいられるためにはどうすべきか、そのための知識を得たり、気軽に相談できる機関が整備されていないことが問題です。われわれ医師は、そうした窓口の1つになり得ると思います。

山下 今は60歳代も70歳代もお元気な方が多いですが、いざ、健康や美容についてさまざまな悩みを相談しようとする、どこに何を相談すべきかわからないこともあるかもしれません。そのきっかけの1つが、美容医療になるのかなと思います。

男性特有のクリニックの選定基準

山下 男性美容を受診する男性患者さんはどのような基準でクリニックを選ぶのでしょうか。小林先生のクリニックは、口コミを頼りに来院される方が多いのですか。

小林 今は、インターネットで実際に治療を受けた方の生の声や評価、費用、他院との比較など、あらゆる情報が入手できる時代です。そうした情報をどこまで信じるかは別にして、ご自分で情報を仕入れて来院される方が圧倒的に多いです。

山下 小林先生のクリニックは「男性専科」を打ち出していますが、その点はメリットになっていますか。

小林 当院は、クリニックの入り口から女性専用外来と男性専用外来と分かれていますので、女性患者さんと男性患者さんが受付や待合で一緒になることはありません(図2)。その点では安心して受診して頂けていると思います。ただ、スタッフの性別やその割合についてはどれくらいが適切か模索中です。たとえば、当院では女性スタッフが患者さんの頭髪の状態を撮影していますが、女性の前で自分の弱い部分をさらけ出すこ

男性の場合は手術やダウンタイムで仕事を休むようなことを嫌がりやすいため、長期に継続してもらおうために、非侵襲な治療を提案するようにしています。

とに、屈辱とまでは言わないにしても、少なからず抵抗を感じる患者さ



池田欣生
IKEDA Yoshio

1995年大阪医科大学卒業。大阪医科大学付属病院形成外科病棟医長。東海大学病院形成外科・美容外科臨床助手を経て、2000年大阪いけだクリニック、2004年銀座いけだクリニック(現 東京皮膚科・形成外科)を開院。日本形成外科学会専門医。日本美容外科学会専門医。日本アンチエイジング外科学会理事長ほか。

んもいらっしゃいます。その点は、女性スタッフだけではなく、男性スタッフでも対応できるよう臨機応変に対応しております。

志水 男性向けのエステティックサロンも含めて、やはり心理的抵抗から、入りづらいと感じます。とくにわれわれの世代の男性は、美容に興味があるということすら公言しにくいところがありますから、40～50歳代の方々に対しては、小林先生のような配慮があると嬉しいと思います。

山下 池田先生のクリニックでは、男性患者さんの心理的抵抗を感じる

- 女性患者と男性患者の受付や待合を分ける
- 保険診療を自費診療の美容医療と同じ受付にする



図2 男性が通院しやすくなるクリニックの工夫
Dクリニック東京での男女別の受付。左：女性、右：男性。